

# *KOIWAI FARM* *Environmental Report*

小岩井農場 環境報告書 2026



小岩井農牧株式会社

## 環境報告書編集方針

本報告書は、2025 年度(2025 年 1 月 1 日～12 月 31 日)、一部 2026 年 1 月以降の活動実績をもとに作成しております。

当社の社外に対する情報公開のためのコミュニケーションツールとして位置付けるとともに、当社従業員が環境課題をあらためて認識し、自らの業務において環境改善に関する具体的な取り組みを考えるよう、注意喚起することも目的としています。

## 目次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 環境方針                       | 3  |
| 2026 年版環境報告書発刊にあたって        | 3  |
| 環境マネジメントシステム               | 4  |
| 小岩井農場の挑戦 環境との共生            | 6  |
| 小岩井農場の挑戦 安全・安心で背景の明確な製品づくり | 8  |
| 環境活動                       | 10 |
| 廃棄物の削減と有効利用                | 10 |
| トピック(各部における環境活動)           | 12 |
| 水質汚濁の防止                    | 13 |
| 環境コミュニケーション                | 13 |
| 地域とのつながり                   | 14 |
| 広報活動                       | 14 |
| 環境パフォーマンスの推移               | 15 |
| 法令遵守                       | 17 |
| 環境会計                       | 17 |
| 環境活動のあゆみ                   | 18 |
| 環境報告書の対象範囲                 | 19 |



### アジサイロード

植樹祭の植栽場所として 2003 年から 2011 年までは、農場創業の歴史と密接な関わりのある旧網張街道を選び、アジサイを継続して植樹しました。延長距離 2,000m、面積 1.8ha に 6,200 株のアジサイが植栽されました。9 年間で延べ 2,000 名の参加者があり、農場の歴史に触れながら、新たな景観造りに参加していただきました。

## 環境方針

私たちは、“不毛の原野から緑の環境を創造”してきた先達の努力の上に立つ小岩井農場を原点として、事業活動を通じて地球環境の保全と改善に努力し「持続可能な発展」を目指します。

すなわち、小岩井農場が農林畜産を基幹事業とし、近年は新たな農畜産商品を世に出しつつ、その事業活動の中で形成してきた緑豊かな自然と環境を大切にしながら事業のさらなる充実を図り、また、これらの事業をベースとして発展させた緑化事業や観光事業まで含めた総合的な事業運営を継続し、社会に貢献することを使命とします。

これらの事業活動推進に際しては、環境に関して以下の理念を持って臨むものとします。

当社の子会社を含めたすべての活動において、従業員一丸となり環境保全・持続型・循環型の事業運営を徹底していきます。また、当社事業に関連する納入業者等にもこの運動を広げ一層の充実を図ります。

そのために、次のことを念頭においた活動を行います。

- (1) 環境保全の徹底を図るとともに、資源の有効活用並びに循環型の活動を目指し、技術の改善を推進します。
- (2) 環境に関連する法令・規則等を遵守します。
- (3) 環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
- (4) 従業員全員は、環境への意識を高く保ちつつ社会との共生を図ります。

小岩井農牧株式会社

代表取締役社長 辰巳 俊之

## 2026 年版環境報告書発刊にあたって

### 【環境への取り組み】

不毛の原野を開拓し、現在の緑豊かな大地に至るまで、小岩井農場は一世紀以上に亘り生産農場として一貫して農林畜産業の充実のために工夫と努力を重ねるとともに、これをベースに種々新たな関連分野の展開を図っています。

従来から継続している事業、また新たに展開を始めた事業においても、常に向上心をもって新規技術導入などによる「進歩・チャレンジする農場」として充実を図り、特に環境問題に対しては「環境保全・持続型・循環型」の運営を推進しています。

当社は、上記の方針の下、従来より環境保全活動を実施してまいりましたが、環境マネジメントシステムの国際規格である ISO 14001 の発効を契機に、より明示的な取り組みとするため 2001 年 4 月に認証登録を受けました。

以降、各事業を運営する上で順守すべき法令への対応、また社内での環境に関する課題など、このシステムを通じて多くの改善を積み重ねてまいりました。その一端を本報告書の中で紹介しております。

今後とも「継続的改善」を意識し、新たなチャレンジにも取り組むとともに、お客様をはじめとする利害関係者の方々への情報公開及び社内コミュニケーションツールの一つとして、この環境報告書の内容の充実に努めてまいります。

この報告書を通じて、当社の環境保全への取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いに存じます。

統括環境管理責任者

鎌田 徹

## 環境マネジメントシステム

### ■「ISO 14001 への取り組み」と「環境マネジメントシステム実施の歩み」

#### ISO 14001 への取り組み

当社は、従来より環境保全活動を実施してきましたが、環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格である ISO 14001 の発効を契機に、より明示的な取り組みとするため認証取得に取り組み、2001年に小岩井農場として認証を取得しました。



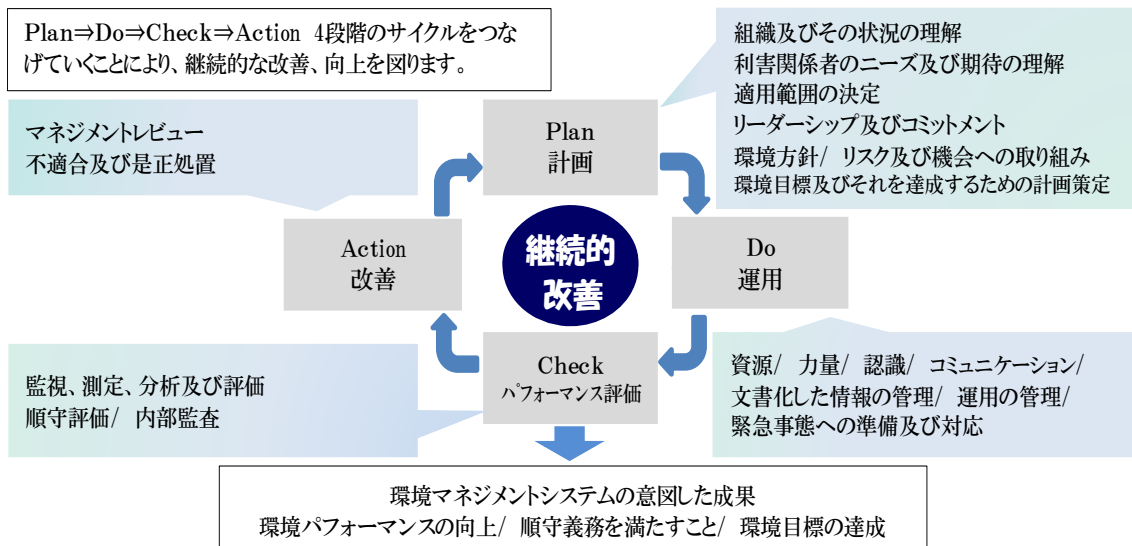
定期審査の様子(2026年3月) 左:食品事業部 製菓工場  
右:環境緑化部 東京緑化支店



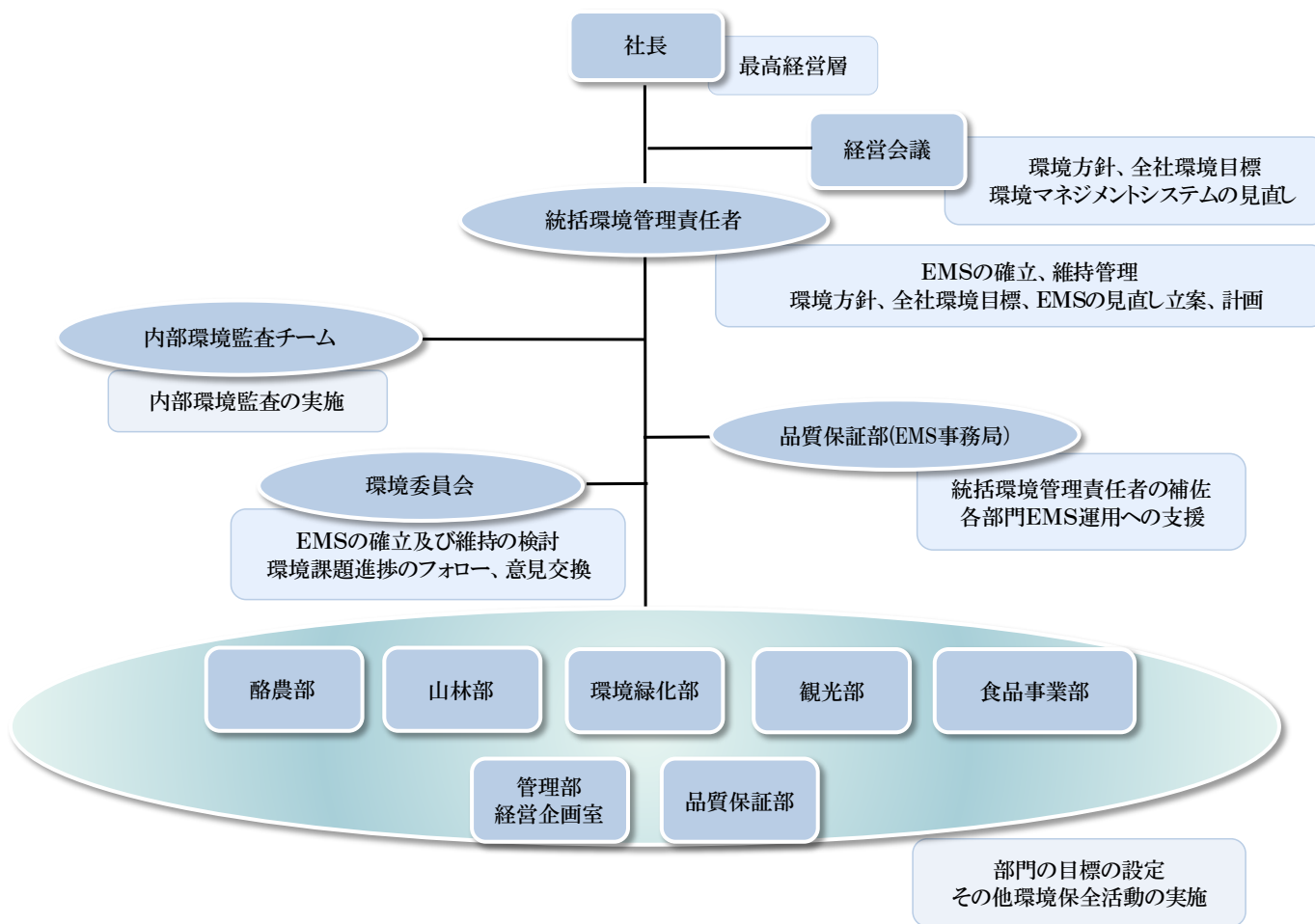
#### 環境マネジメントシステム実施の歩み

- 1999年10月 環境室(現 品質保証部 (EMS 事務局))設置  
環境マネジメントシステム構築開始
- 2000年3月 環境方針策定
- 2001年4月 小岩井農場として、ISO 14001 認証取得  
(2002年12月 環境緑化事業 ISO 9001:2000 認証取得)
- 2003年5月 小岩井ファームサービス(株)製造部製菓・製パン工場を関連事業所として追加(拡大審査受審)
- 2004年3月 更新審査受審(認証継続)  
環境室を環境品質部として改組(環境マネジメントシステムの運用に加えて、品質マネジメントシステム再構築に取り組む)
- 2005年6月 定期及び移行審査受審(ISO 14001:2004 への対応)
- 2007年3月 更新審査受審(認証継続)
- 2008年6月 農場商品部及び小岩井ファームサービス(株)を統合  
小岩井農場商品(株)として登録内容を変更
- 2010年3月 更新審査受審(認証継続)
- 7月 環境品質部と技術研究センターを機能統合し、「品質保証部」が発足(EMS 事務局担当)
- 2013年3月 更新審査受審(認証継続)
- 2016年3月 更新審査受審(認証継続)
- 2017年3月 拡大審査受審(環境緑化部東京緑化支店・仙台緑化営業所・盛岡緑化営業所)
- 2018年3月 ISO 14001:2015 年版移行審査受審
- 2019年3月 更新審査受審(認証継続)
- 2020年4月 小岩井農場商品(株)を吸収合併  
乳加工販売部と機能統合し、「食品事業部」が発足
- 2022年3月 更新審査受審(認証継続)
- 2024年3月 種鶏部は種鶏事業から撤退し、事業終息
- 2025年3月 更新審査受審(認証継続)

### ■ 環境マネジメントシステム概念図(継続的改善)



## ■ 環境マネジメントシステム運用組織図



## ■ 内部監査

当社では各部門が相互に内部監査を実施しており、品質保証部 EMS 事務局が立ち会います。内部環境監査の結果は、全て EMS 事務局を通じて経営層に報告されます。

## ■ 教育訓練(環境)

### 緊急事態対応訓練

毎年、東日本大震災時の教訓を基に、地震による停電を想定した訓練など、マニュアルに沿って継続しています。また、農場内の重要文化財の火災を想定した対応訓練も継続して行っています。



予備発電装置の稼働訓練



火災対応訓練

### 社内講習会

従業員の力量を高めるため、社内で定期的に講習会などを実施しています。（品質保証部出前講習）

- ・新入社員研修(環境):各部門
- ・従業員導入教育(環境・食品衛生講習会):観光部
- ・食品関連講習会:観光部
- ・環境関連勉強会:食品事業部
- ・排水処理施設(ラグーン)社内研修会:観光部、食品事業部



観光部従業員への  
環境・食品衛生講習会

## 小岩井農場の挑戦 環境との共生 環境保全・持続型・循環型を基軸とした事業運営

原野に一本の苗木を植えることから始まった小岩井農場は、農業者としての一貫した志に基づき、一世紀以上に亘って工夫と努力を積み重ね、緑豊かな環境を作り出してきました。また、明治 30 年代より農場用地全体が禁猟区（現在は鳥獣保護区）に指定され保護地域となってきました。その実績の上に酪農事業、山林事業といった農林畜産業を基軸として、環境保全・持続型・循環型の運営を行っており、農場総面積の三分の二にあたる約 2,000ha の森林においても毎年森林の生長量だけを伐採、供給する持続的な森林経営を続けています。

環境緑化事業では、山林事業で培った技術と知識を背景に、岩手県をはじめとして、東北～関東を中心に、公園、工場、住宅地などの緑化造園を通じて、人と地域に密着した緑豊かな環境づくりに貢献しています。

また、農場内には岩手山由来の伏流水や多様な生態系を育む自然環境が形成されています。ミズバショウやモリアオガエル、ホタルなど四季折々の動植物を通し、農場を訪れる多くのお客様にとって身近に自然を感じていただける存在であり続けることで、環境保全の重要性を伝えていきます。

### ■ 環境に配慮した森林経営

#### 資源としての樹木

木材は環境保全上優れた資源です。樹木は二酸化炭素を吸収し、木材に加工された後も炭素を固定し続けます。この観点からも木材を各種用途に活用し、長く愛用することは環境への貢献に繋がると考えています。

#### 森林の持つ公益的機能

森林の持つ機能は、木材の生産以外にも炭素固定による地球温暖化防止、水資源の涵養、国土保全、災害防止、生物多様性の維持など多岐にわたり私たちの生活と密接に関わっています。これらの機能は、管理の手が入らずに放置されているような森林では充分に発揮できません。適正に管理された森林そのものが環境貢献であると考えています。



#### 100年の森

一世紀も前に植林され農場を見守りつづけてきたスギ。根元から見上げれば、その大きさに圧倒されます。小岩井農場ではまきば園の体験プログラムの一つとして、お客様を山林内に案内し雄大な自然を感じる機会を提供しています。

### ■ 緑の環境づくりの提案

当社では、長年取り組んできた山林事業を背景に、公園、工場、住宅地などの緑化造園を通じて、人と地域に密着した緑豊かな環境づくりに貢献しています。

#### 屋上緑化・壁面緑化への取り組み

都市部のヒートアイランド現象に対しては、人工地盤緑化による屋上緑化や壁面緑化などを積極的に推進し、また潤いと安らぎの空間創造などの提案施工・維持管理も行っています。

#### 水辺緑化・水質浄化への取り組み

都市域の河川では植生護岸や水質浄化などの機能的な効果も注目されています。当社では、河川や水路などの水辺の環境保全を担う水辺緑化技術、湿地による水質浄化機能を応用した人工湿地システム他、環境問題に対応するさまざまな技術に基づいた提案を推進しています。

#### 樹木診断・治療への取り組み

当社の樹木医が最新の技術・知識を駆使して行う樹木診断を通して、その健全性、危険性の評価を科学的な根拠に基づいてお客様に提示しています。更に問題点を解決するための対策についても、樹木治療・維持管理・安全管理面などの総合的で的確なアドバイスをしています。



緑化植栽リニューアル工事  
横浜ベイクォーター花壇緑化  
(神奈川県)



壁面緑化  
丸の内パークビルディング  
三菱一号館 一号館広場(東京都)



屋上緑化技術  
東京交通会館屋上緑化(東京都)



診断装置による樹木内部の診断  
山田町 大沢の臥竜梅(岩手県)

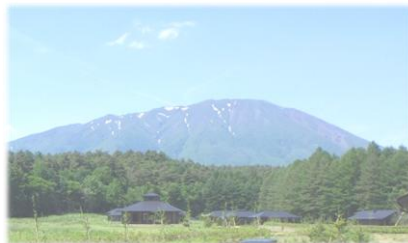
## 指定管理者としての取り組み

指定管理制度に基づいて、岩手県立御所湖広域公園をさらに魅力ある公園として利用していただくために、岩手県より運営、管理業務を KOIwai・F(\*)が受託しています。

(\*:小岩井農牧(株)・(有)フォレストサービスの共同企業体)



岩手県立御所湖広域公園  
ファミリーランド  
(岩手県雫石町)



AZUMA FARM Koiwai  
小岩井開発計画(植栽・ランドスケープ工事)  
※2026 年竣工時 (岩手県雫石町)



AZUMA FARM Koiwai  
小岩井開発計画(植栽・ランドスケープ工事)  
※2026 年竣工時 (岩手県雫石町)

## ■ 小岩井農場が取り組んできた「環境保全・持続型・循環型」事業運営の紹介

### 歴史文化、畜産と山林の生産農場の魅力と営みに触れ、類まれな環境を活かした自然体験プログラム

一般非公開の牛舎や林業の生産現場を含め、持続可能な事業運営の紹介、畜産と林業から未来を考えることなど、専門ガイドの案内による「見学」「体験」「学び」「遊び」を通して、小岩井農場独自の歴史文化や自然環境を体感できる参加型プログラムを展開しています。

### 自然を楽しむ

ファームトラクターライド ..... 非公開森林エリアをめぐるツアー

小岩井農場探訪ツアー ..... 国指定重要文化財「上丸牛舎群」見学、他

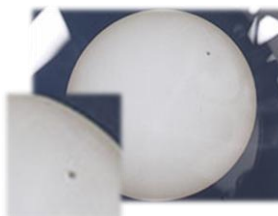
太陽観察会、星空散歩 ..... ニコン20cm大型屈折望遠鏡を使って太陽黒点観察、天文館内外での星空観察



ファームトラクターライド



小岩井農場探訪ツアー



太陽観察会(太陽の黒点)



星空散歩

### 歴史に触れる

#### 小岩井農場重要文化財ギャラリー

最新のデジタル技術を用いて、1891(明治24)年創業の小岩井農場の歴史や、重要文化財を紹介



四階倉庫 ※重要文化財に指定された21棟から



小岩井農場重要文化財ギャラリー

#### 小岩井農場めぐりバスツアー

明治時代からの酪農風景をバスに乗って紹介



小岩井農場めぐりバスツアー  
重要文化財コース



小岩井農場資料館

#### 小岩井農場資料館

小岩井 135 年の歩みや現在の事業、農場内の文化財や宮沢賢治との関わりなどを展示

## 小岩井農場の挑戦 安全・安心で背景の明確な製品づくり

すべてはお客様からの信頼にお応えするために

農場で生産される生乳、牛肉などの生産段階から食品加工段階に至るまで、衛生管理、品質管理の体制を整え、食品安全の確保に取り組んでいます。

### ■ 生産段階での取り組み

#### 土づくりからはじまる生乳生産

酪農事業は1901(明治34)年から続く農場の基幹事業です。

風味のあるおいしい生乳を搾るために、土づくり・草づくりに力を注いでいます。

牛の飼料の主体である牧草やデントコーン(トウモロコシ)を約630haの圃場に作付けしています。



#### 安全・安心を徹底した飼養管理

乳牛の健康管理のため、農場で生産した良質な牧草を主体に給与し、また飼養環境の工夫などによりストレスを与えない飼いを心がけています。

安全安心な生乳生産のため、搾乳牛となる仔牛の哺育段階から健康管理に努め、予防的な抗生物質の投与を行わないなど、徹底した衛生管理の下、健康な乳牛を育てています。また、搾乳工程管理には HACCP 手法を取り入れ衛生的な生乳生産に取り組んでいます。

### 飼養環境の追求(酪農事業)

#### 鶴ヶ台牛舎

2013(平成25)年に完成した搾乳施設では、搾乳時間短縮による牛へのストレス低減や、乳牛の情報解析システムの導入による生産性の向上に取り組んでいます。

#### 肥育牛舎

2021(令和3)年に完成した肥育牛舎では、ストレスを軽減した飼養管理技術の充実を図りながら、優秀な肉質の黒毛和牛や交雑牛の繁殖から肥育までの一貫生産を行っています。

#### 哺育牛舎

2026(令和8)年に完成した哺育牛舎では、衛生管理による疾病の低減に重点を置き、初期発育の向上に努めています。自動給餌器や哺乳ロボット導入による作業の効率化、また大型ファンにインバーターを導入することで、省エネルギーによるCO<sub>2</sub>削減など環境負荷低減も図っています。



搾乳作業



肥育牛舎外観



仔牛用のカーフハッチ

## 食の提供

小岩井農場の酪農事業の生乳生産から製品加工までの一貫体制の優位性を生かした製品として、小岩井農場ならではの「低温殺菌牛乳」の他、「のむヨーグルト」「ナチュラルチーズ」「ソフトクリーム」などを商品化する「乳加工事業」を行っています。「風味豊かな」「質の高さ」「こだわり」「本物志向」にお応えしています。

本事業の要である生乳を生み出す過程は、土づくり・草づくり・牛づくりにこだわった環境保全・持続型・循環型という当社の経営理念を反映しています。



## 農場産素材の活用

小岩井農場で生産された牛乳、小麦などの厳選素材を使ったケーキ、クッキーは、農場内にある製菓工場で作られます。こうして作られた製品は、お客様にダイレクトにお届けする通信販売、まきば園をはじめとする直営店、並びに百貨店などを通じてお客様にお届けしています。



小麦栽培圃場

## 品質への取り組み

### 食の安全・安心

小岩井農場の商品・サービスに対する「安全・安心」を裏付けるため、食品品質・衛生管理体制を整え、常に品質マネジメントシステムのレベルアップに取り組んでいます。

### 製品の歩留まり率向上や廃棄ロス削減

製菓工場や製乳工場では、環境マネジメントシステムの手法を用い、製品の歩留まり率向上や廃棄ロス削減など、環境負荷低減を目標とした品質への取り組みを行っています。

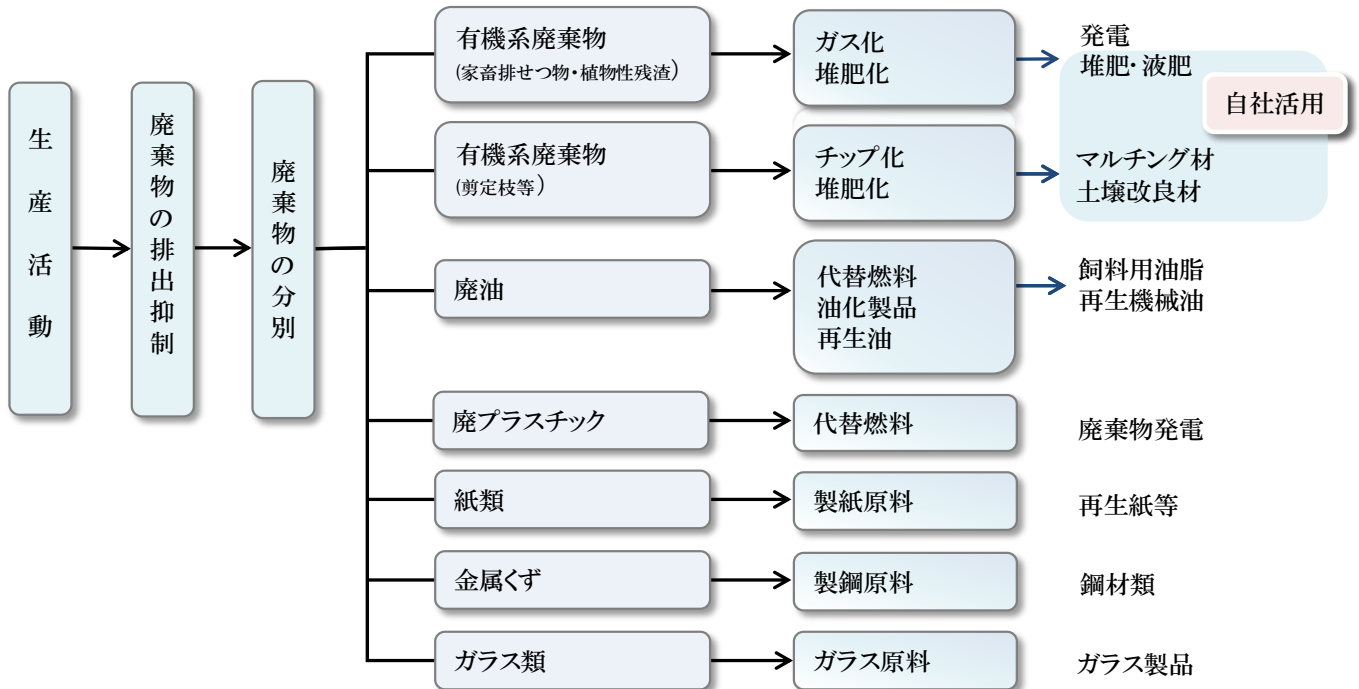


## 環境活動

### 廃棄物の削減と有効利用

小岩井農場では、循環型社会に寄与すべく、廃棄物の排出削減とリサイクルに取り組んでいます。自社内でのリサイクル資源以外、廃棄物の種類や量を把握し、委託処理を行っています。委託先を評価・選定する際には、可能な限りサイクルシステムを持った委託先を選定しています。

廃棄物の循環型システムフロー



### 《廃棄物の有効利用の事例紹介》

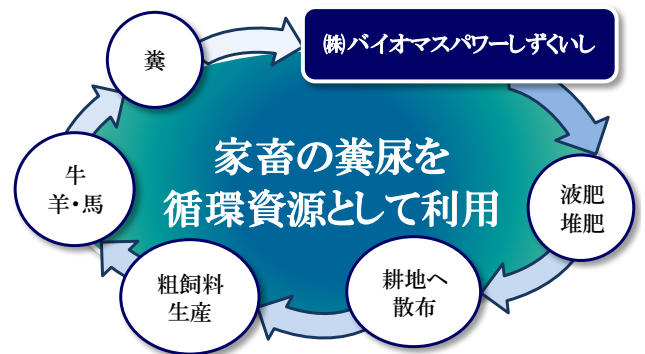
#### 畜産部門：家畜排せつ物の処理

家畜糞尿等の家畜排せつ物の適正処理・有効利用は、畜産業界にとって大きな課題の一つです。

2004年4月、小岩井農場(株)、三菱重工環境・化学エンジニアリング(株)、東北発電工業(株)、東京産業(株)、雫石町は「(株)バイオマスパワーしずくいし（以降、BPSで表記）」を設立。2006年6月から小岩井農場敷地内においてバイオマス利活用施設が稼働を開始しました。

当施設では、小岩井農場で飼養されている牛や羊・馬といった家畜から排出される糞尿や、雫石町など周辺地域から集めた食品残渣をもとに、メタンガスを利用したグリーン電力や液肥、堆肥を生産しています。

ここで生産された液肥、堆肥は小岩井農場の耕地に還元し、牧草などの飼料を生産します。そして生産した飼料を家畜に与え、生乳、肉を生産します。このように小岩井農場ではBPSを通して資源を有効利用する「循環型」生産活動を行っています。



耕地への堆肥散布



BPS 全景



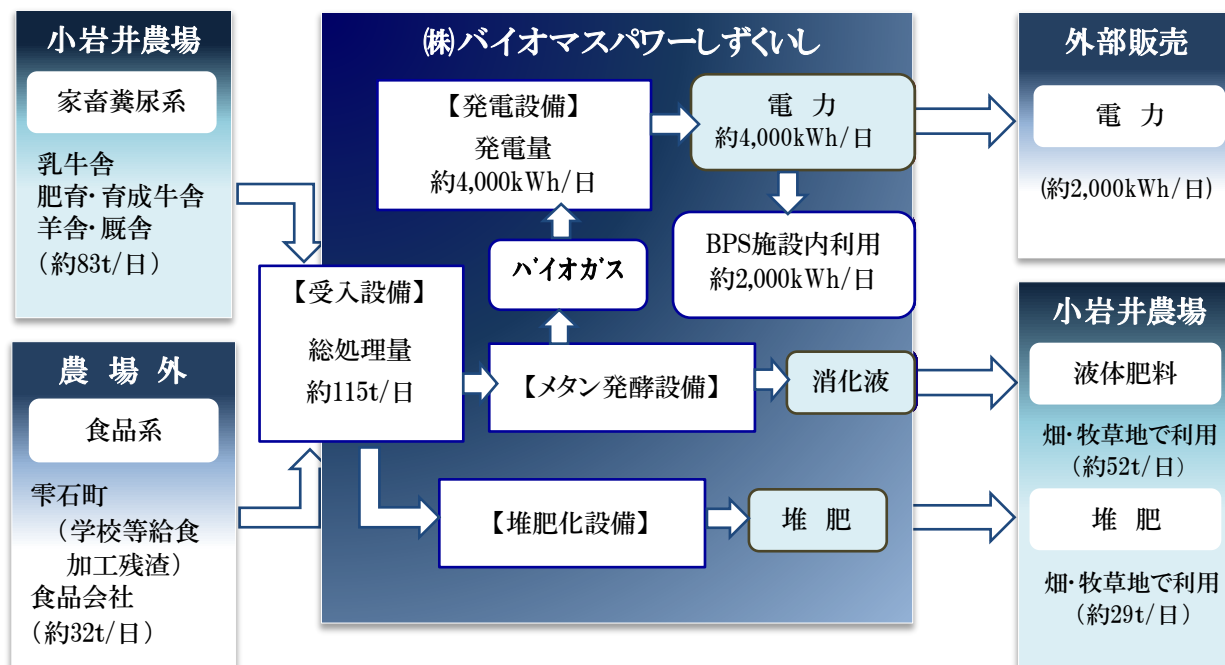
発電設備



堆肥化設備

BPS では一日に約 83 t の「家畜排せつ物（畜産系バイオマス）」と約 32 t の「食品残渣（食品系バイオマス）」を受け入れ、そこから約 4,000kWh の電力を発電、また、約 52 t の液体肥料と約 29 t の堆肥を生産しています。

（下図参照）



- ・「平成 24 年度 東北再生可能エネルギー利活用大賞」を受賞（東北経済産業局主催）
  - ・「平成 26 年度 新エネ大賞資源エネルギー庁長官賞」を受賞（新エネルギー財団主催、経済産業省後援）
- BPS では、小岩井農場と連携して家畜の排せつ物や廃棄される食品を処理し、メタンガス発電や堆肥などの製造を行っています。これらを販売する地域循環型ビジネスモデルが評価されました。

## トピック（各部における環境活動）

### 廃プラスチック廃棄量の削減

環境緑化部では、緑化造園工事の施工現場で発生する堆肥の空袋（廃プラスチック）の廃棄量を減量するため、フレコンバッグ（大型の通い袋）での納入を推進しています。お客様のご理解を得ながら、堆肥の製造部門である酪農部との連携のもと進めています。

### 木質系廃棄物の廃棄量の削減

自走式木材破砕機を導入し、環境緑化部の施工現場で発生する枝葉など、木質系廃棄物のリサイクル（木材のチップ化）を推進しています。



自走式木材破砕機



小岩井農場植木植物園  
（歩道に木材チップを再利用）

### 樹幹腐朽非破壊診断装置による樹木診断

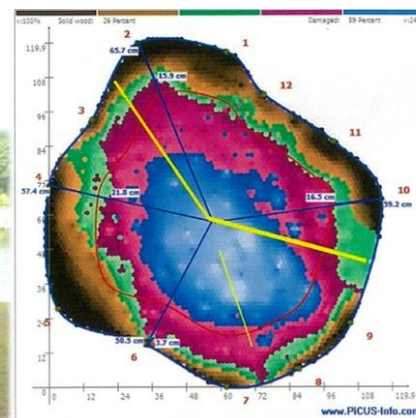
音波の伝播時間を利用した樹木内部の腐朽等を診断することができる装置は、樹木を切断することなく樹幹内の診断が可能ことから、保存樹木や天然記念物指定樹木などの診断にも有効です。



盛岡市 米内浄水場のシダレザクラ



平泉 毛越寺



樹木断面図

### フェニックスアワード 2022 受賞

第3回「フェニックスアワード」(主催:一般社団法人東北観光推進機構)で、農場内をお客様にご案内する観光部の「小岩井農場めぐりバスツアー」が「フェニックスアワード 2022」を受賞しました。

環境型社会への取り組み、畜産農業の活性化、観光交流人口の拡大など、持続可能な地域観光が功績として認められました。農場ガイドと共に見学できる学習効果の高いバスツアーです。



重要文化財の牛舎を見学

### 排水処理施設の社内研修会

農場内まきば園エリアの排水処理には自然の浄化メカニズムを活用した処理施設（ラグーン）を設置、利用しています。

2025年には施設への理解を深めるための社内研修会を開催しました。



現地説明会(ラグーンを目の前にして)

### 食品ロスの削減

食品ロス削減に向けた取り組みの一つとして、「すぐに食べる」商品については、賞味期限がより長い商品を選択的に購入するのではなく、陳列順に購入することが挙げられます。このような消費行動を呼びかけるPOPを掲示しています。



商品陳列棚に設置



## 水質汚濁の防止

### 農場内で発生する排水については

それぞれの施設では排水処理施設や浄化槽を設置し、処理を行っています。  
一例として酪農部鶴ヶ台牛舎では、膜分離活性汚泥処理施設による排水処理を行い、自然環境への負荷を低減しています。

### 場内を流れる河川では

カワシンジュガイ  
(場内河川  
逢ノ沢にて)



山間部の清流に生息するとされる「カワシンジュガイ」(※いわてレッドリスト(絶滅危惧2類)に指定)を見ることができます。このような希少種の保護にも留意し、農場内を流れる河川の水質については、定期的なモニタリングを実施しています。



鶴ヶ台牛舎 排水処理施設



採水の状況(場内河川)

### ※いわてレッドリスト(2024年版)

岩手県内の野生動植物の状況に関するリストで、県レベルで保護上重要な種を植物 735 種、動物 501 種選定しています。(2024 年 12 月現在)  
絶滅のおそれの程度に応じた区分(カテゴリー区分)と動植物の種類の区分(分類群)は環境省のレッドリストに準拠しています。

#### 危険性のランク

絶滅危惧 1 類：絶滅の危機に瀕している種  
絶滅危惧 2 類：絶滅の危機が増大している種  
準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種  
留意：現時点では「絶滅危惧」に該当しないが、生育・生息条件の変化によって上位カテゴリーに移行する可能性が高い種、あるいは優れた自然環境の指標となる種



## 環境コミュニケーション

### 【植樹祭の開催】

荒涼たる原野を豊かな森にすることを夢見て植林を開始し百有余年、小岩井農場の森林経営理念「健全で多様な森林の構成」に則り、計画的に育てた森から優良材の供給を続けています。

その理念を次世代に繋ぐため 1968 年から毎年植樹祭を開催しています。

59 回目の開催となる 2026 年は、スギ 350 本を新入社員と当社 OB の約 50 人で植栽しました(関連企業の方々やそのご家族が参加されることもあります)。

小岩井農場で有する森林の内 745 ha が水源涵養保安林に指定されており、また森林と牧草地等の持つ水資源の貯留機能はそれぞれ 600 万t、500 万tと試算されています(岩手大学の調査による)。



第 59 回植樹祭

### 【桜の植樹】

メディアでも取り上げられている県道沿いのソメイヨシノの並木。  
この景観を維持していくため、次世代の桜「小松乙女」を 2022 年 4 月に植樹しました。



県道沿い桜植樹



### 【お客様とのコミュニケーションの機会】

#### 緑化植物の生産と販売

40ha の苗木圃場に、常時 250 種、30 万本の緑化植物を保有し、緑化造園工事から個人の庭まで、お客様の要望にお応えできる樹木の販売も行っています。

2003 年からは、苗木圃場の一部を「小岩井農場植木植物園」として開放し、個人のお客様からの庭の設計・施工、庭木の手入れ等のご相談にも応じています。



小岩井農場植木植物園

#### 自然と歴史のガイド

一般非公開森林エリアや牧草地、国指定重要文化財の牛舎をガイドが案内します。

実際に豊かな自然の中で、環境保全や持続性、循環についても感じ取ることができ、そこで目にする生態系についても考える機会となります。  
また、明治から昭和初期にかけて建てられた牛舎の歴史に触れ、そこで実際に暮らす牛たちの様子と共に見学できます。



牛舎の見学

### 【御所湖周辺統一清掃活動への参加】

#### 御所湖周辺統一清掃

ボランティア活動の一環として『御所湖の清流を守る会』などの主催で年2回実施される清掃に参加しています。活動を通じて、地域との連携に努めています。



### 【県道周縁部の環境整備】

#### 農場内県道沿いの清掃

年2回、各部で分担して実施しています。



#### 県道沿いの草刈り

年2回、実施しています。通行車両への飛び石対策等、安全に配慮して作業しています。



## 広報活動

各種メディアへの取材協力（新聞紙上などで取り上げられた内容を一部掲載します）

#### ・一本桜、上丸牛舎、まきば園などの桜

2026年3月30日テレビ朝日「クイズプレゼンバラエティQさま!!」、4月15日IBC岩手放送「金Y0! 瓦BAN」、4月10日KBS京都「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」等のテレビ、ラジオ、また、新聞等で農場の桜が紹介されました。他にも月刊誌、季刊誌、観光情報サイト、旅行パンフレット、カレンダー、トレーディングカードなど様々なジャンルで紹介されています。

#### ・アクティビティ体験

三菱グループ、大和ハウス工業㈱、家庭画報など、企業のオフィシャルサイトの中で、小岩井農場が掲載されました。環境保全や循環型の運営、重要文化財を通して歴史や文化的価値等を紹介。また、アクティビティ体験からの感想などが紹介されました。

#### ・「AZUMA FARM Koiwai」開業

2026年4月23日小岩井農場の地にJRSTB小岩井開発㈱が運営するホテル「AZUMA FARM Koiwai」が開業し、各メディアで取り上げられました。小岩井農場の豊かな自然環境と調和させ、その土地の文化や風土を大切にしながら、次世代へ自然を繋ぐ新しい「Farm Life」を形にしたことが紹介されました。





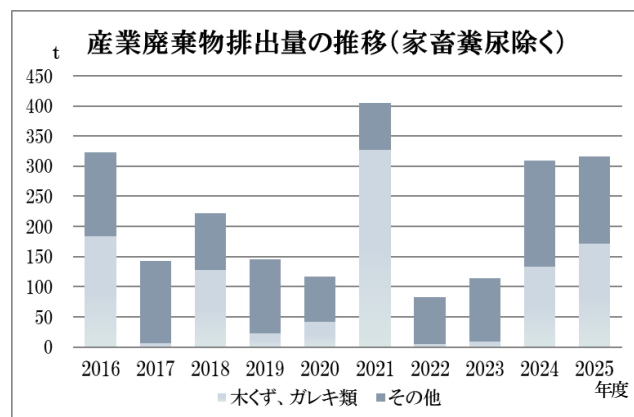
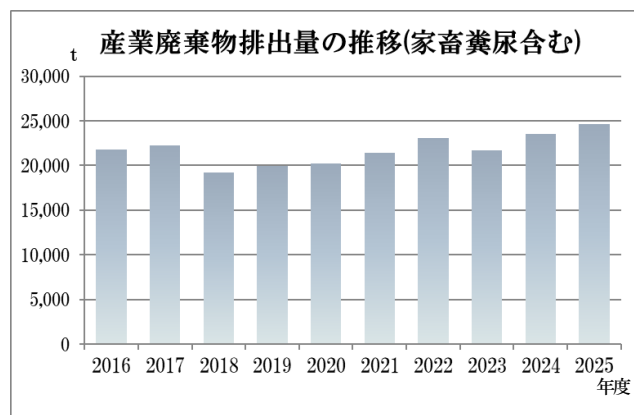
## 【産業廃棄物・一般廃棄物の排出量】

### 産業廃棄物

当社の場合、年間2万t以上排出される家畜糞尿は従来全量自社処理を行っていましたが、10、11ページ記載のBPS稼働に伴い、2006年4月より法規制上産業廃棄物の排出量としてカウントされることとなりました。

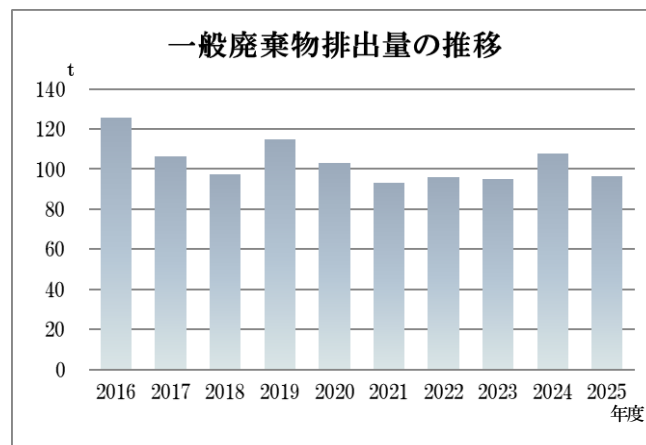
産業廃棄物の排出量が年間1,000t以上ある場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)に基づき、多量排出事業者としての届出が必要となりますので、2007年度以降は年間排出実績を岩手県に報告しています。

なお、家畜糞尿以外の産業廃棄物は排出量が少ないため、一時保管所に蓄積の上、委託処理業者へ引き渡しています。そのため、排出する時期によって年度毎の排出量が大きく変動する場合があります。



### 一般廃棄物

排出抑制、リサイクル推進等の取り組みを行っています。保管期限の過ぎた書類、不要になった書類のリサイクルや廃棄などにより、年度ごとに増減があります。

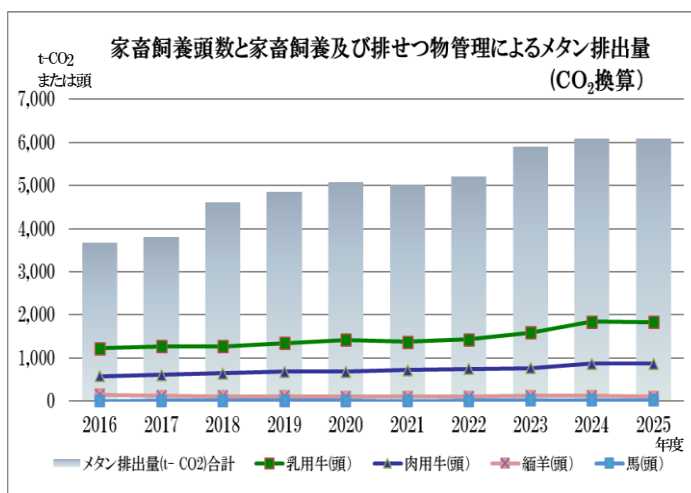


## 【温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度への対応】

地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)に基づき、2006年4月1日から、温室効果ガスを多量に排出する者(特定排出者)に、自らの温室効果ガスを算定し、国に報告することが義務付けられました。

当社の場合、飼養している乳用牛、肉用牛、綿羊、馬から排出されるCH<sub>4</sub>(メタン:食物を消化する際に、胃腸等の消化管内の発酵で生じます)及び家畜排せつ物管理により排出されるCH<sub>4</sub>のCO<sub>2</sub>換算排出量が報告の対象となります。

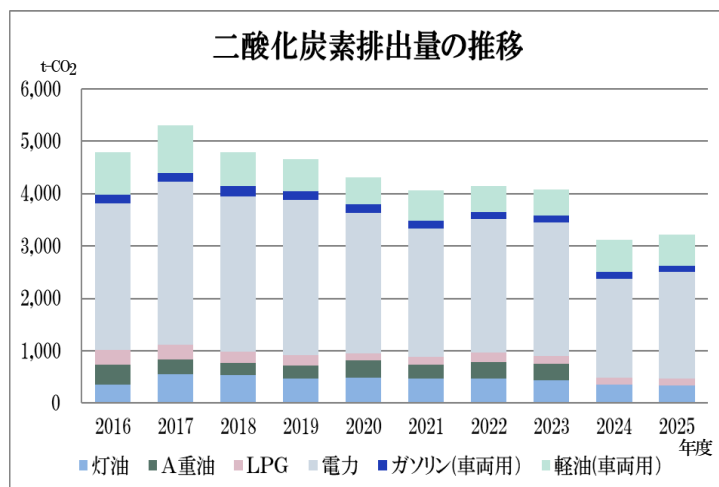
上記排出量の大部分を占める飼養による排出量は乳用牛、肉用牛等、それぞれの飼養頭数に国が定めた係数を掛け合わせて算出します。2025年度排出量はCO<sub>2</sub>換算で6,085tでした。



## 【二酸化炭素排出量】

**2020年** この年以降は新型コロナウイルスの情勢により、エネルギー使用量が減少。

**2024年** 種鶏事業終息に伴い、灯油・A重油・電力等の使用量が大幅に減じて、二酸化炭素排出量が減少。

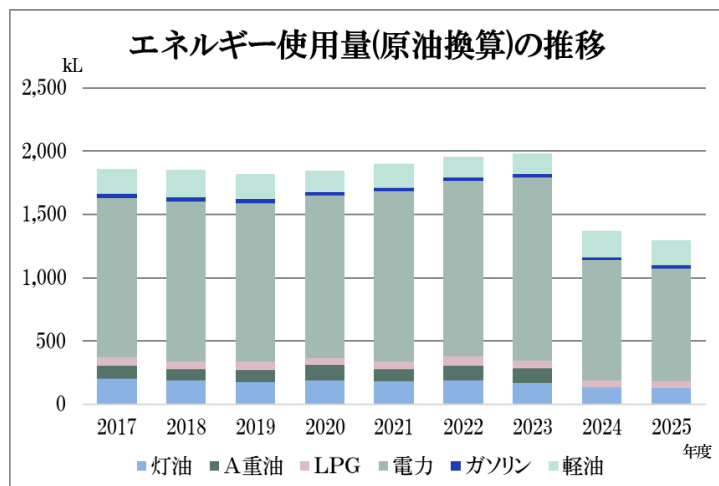


## 【エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律(省エネ法)への対応】

2017年度から当社におけるエネルギー(電力、ガソリン、軽油、A重油、LPGの原油換算値)の年間使用量が1,500kLを超えたことにより、省エネ法上の「特定事業者」(小岩井農牧(株))及び「第二種エネルギー管理指定工場等」(小岩井農場)に指定されました。省エネ法に基づくエネルギー使用量の定期的な報告、また中長期的に見たエネルギー消費の削減などに取り組んでいます。なお、省エネ法対応に伴うエネルギー使用量の集計根拠は、【二酸化炭素排出量の推移】の根拠と差異があります。

2020年度はコロナ禍の影響を受けていますが、一方で小岩井農場商品(株)と合併したことにより、総使用量に大きな変化は見られませんでした。

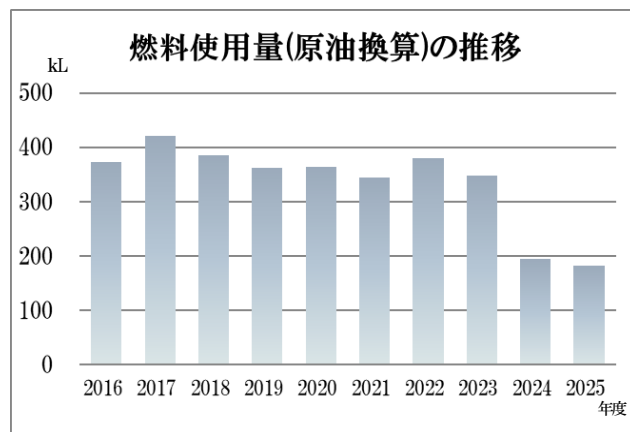
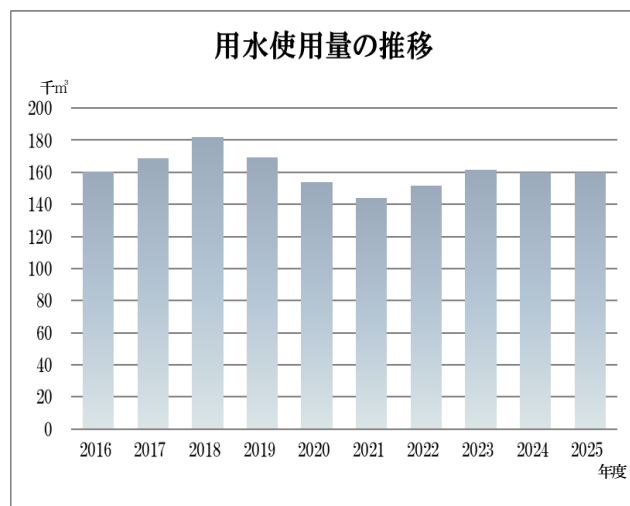
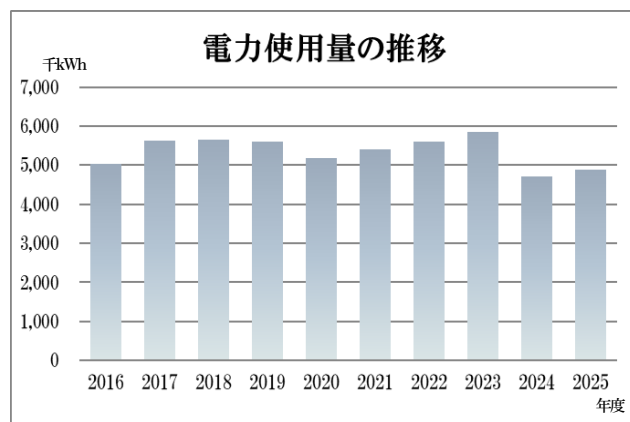
また、2024年度は種鶏事業終息に伴い使用量が減少しましたが、2026年1月より酪農部の新哺育牛舎が稼働を開始したことから再び1,500kLを超える可能性があるため、引き続き省エネ活動を推進しています。



## 【エネルギー使用量】

**2017年** 種鶏孵卵施設の本格稼働などに伴い、電力使用量増加。

**2024年** 種鶏事業終息に伴い、電力と燃料使用量が減少。



定期的に環境関連法規等の遵守状況を評価し、逸脱等の問題がないことを確認しています。  
また、環境に関する苦情等ありませんでした。

## 環境会計

2025 年度

|          |            |
|----------|------------|
| 集計範囲の内訳  | 小岩井農牧株式会社  |
| 対象範囲(開始) | 2025/ 1/ 1 |
| 対象範囲(終了) | 2025/12/31 |
| 単位       | 円          |

| 環 境 保 全 コ ス ト |                                                          |                                                    |     |                                                       |
|---------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----|-------------------------------------------------------|
| 分 類           |                                                          | 主な取り組みの内容                                          | 投資額 | 費用額                                                   |
| (1)           | 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト<br>(事業エリア内コスト) | 詳細は下記の内訳の項参照                                       |     | 92,274,522                                            |
| 内<br>訳        | ①公害防止コスト                                                 | 排水処理施設等の管理 減価償却費<br>定期点検費用等                        |     | ( 99,184 )<br>( 2,057,451 )                           |
|               | ②地球環境保全コスト                                               | 自社山林の保全管理(持続可能な森林の育成) (注1)                         |     | ( 39,872,540 )                                        |
|               | ③資源循環コスト                                                 | リサイクル関連 家畜排せつ物の堆肥化                                 |     | ( 18,180,165 )                                        |
|               |                                                          | 食品廃棄物等の堆肥化<br>剪定枝のチップ化<br>産業廃棄物の処理費用<br>一般廃棄物の処理費用 |     | ( 0 )<br>( 220,000 )<br>( 30,852,504 )<br>( 992,678 ) |
| (2)           | 生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト<br>(上下流コスト)      | 容器包装リサイクル法に関連する<br>再商品化委託手数料                       |     | 450,221                                               |
| (3)           | 管理活動における環境保全コスト<br>(管理活動コスト)                             | ISO14001 審査登録に関する費用<br>環境負荷の監視測定<br>人件費・教育費        |     | 1,294,896<br>586,000<br>11,232,500                    |
| (4)           | 社会活動における環境保全コスト<br>(社会活動コスト)                             | 社内景観の維持(景観整備)<br>その他(環境関連団体会費等)                    |     | 12,095,600<br>33,000                                  |
| (5)           | 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)                                    |                                                    |     | 0                                                     |
| その他のコスト       |                                                          |                                                    | 0   | 0                                                     |
| 合 計           |                                                          |                                                    |     | 117,966,739                                           |

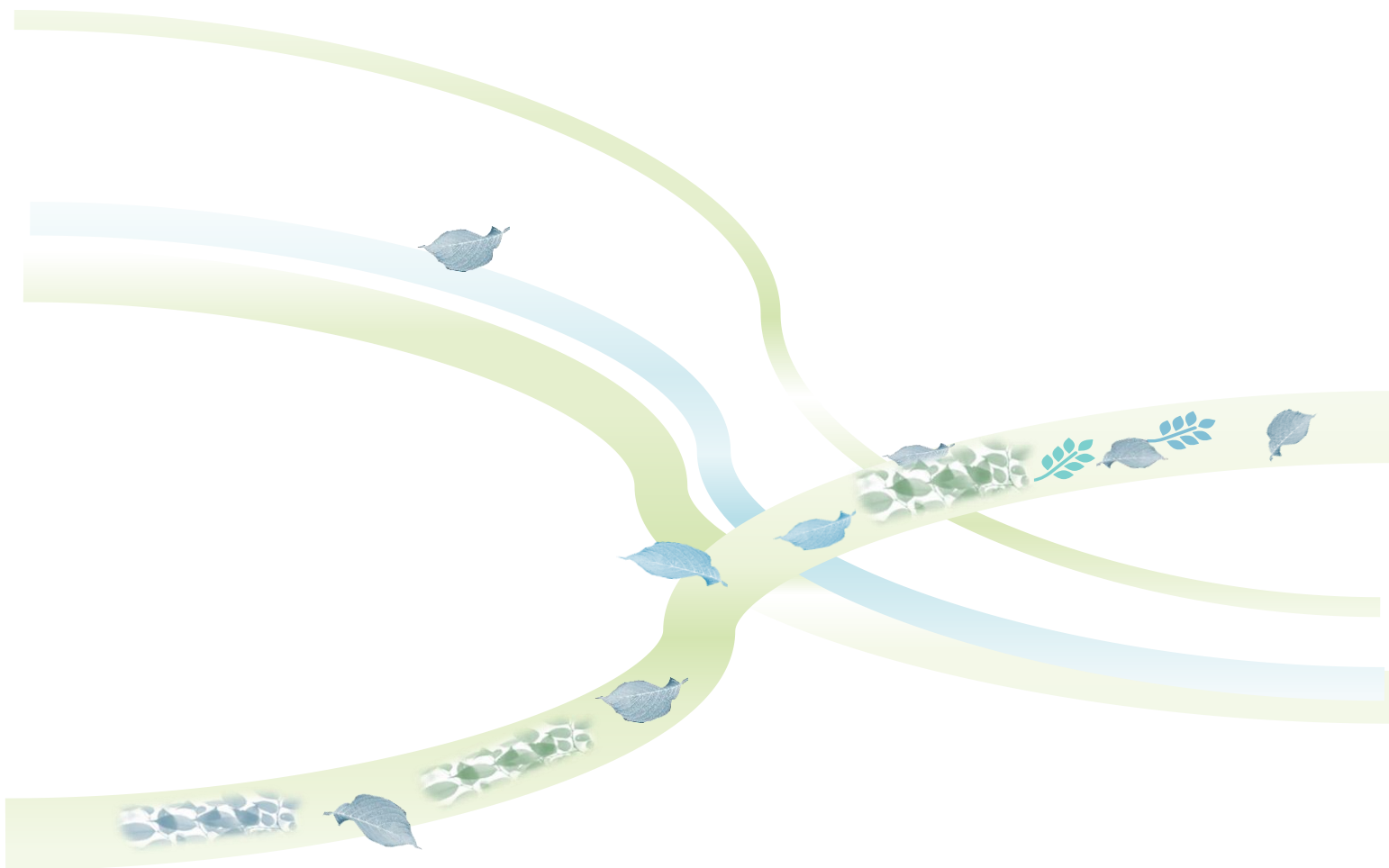
注1)「環境保全コスト分類の手引き 2003 年版」によれば、林業自体の活動は評価の対象ではありませんが、本報告書では林業全体に要する費用のうち適正な森林管理にかかる費用として、約 39.9 百万円の費用を計上しております。

参考)小岩井農牧(株) 2025 年度売上高 4,308 百万円

## 環境活動のあゆみ

- 2000 ・廃プラスチックのサーマルリサイクル向け利用開始  
・まきば園で排出される生ごみの堆肥化開始  
・まきば園に氷蓄熱式パッケージエアコンの導入(以降、随時導入)
- 2001 ・小岩井農場として、ISO14001 認証取得  
・剪定枝等木質系資源をチップ化し、緑地のマルチング材として利用開始
- 2002 ・環境緑化事業 ISO9001:2000 認証取得  
・グリーン調達基本方針を全社手順書に格上げ「グリーン購入ガイドライン」発効
- 2003 ・小岩井ファームサービス(株)製造部製菓・製パン工場(現小岩井農牧(株)食品事業部)を関連事業所として追加(拡大審査受審)  
・印刷物の仕様を見直し、会社案内、各種パンフレット等において大豆インクへの切替え、FSC 認証紙の採用を開始  
・(公財)都市緑化機構主催の「第2 回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール」日本経済新聞社賞受賞
- 2004 ・電力需要の一部を担っていた自家発電設備を非常用に転換し、全量を購入電力に切替え
- 2005 ・ハイブリッドカーを営業用車両として導入開始  
・牧場館焼肉レストランにて、牛の個体識別番号掲示開始(特定料理提供者には該当しない)  
・岩手県主催 エコスタッフ養成セミナー1 名受講(以降 2006、2010、2011、2019、2022、2024 計 8 名受講)
- 2006 ・(株)バイオマスパワーしずくしがバイオマス利活用施設(発電、堆肥化)として本格稼働開始  
(小岩井農場でのグリーン電力の使用開始)  
・酪農部作業機械の燃料として廃食用油をリサイクル利用したバイオディーゼル燃料(BDF)の試験導入開始  
・CO<sub>2</sub> ダイエットポイント推進事業(岩手県地球温暖化防止活動推進センター)への協賛(～2007)  
・「いわて地球環境にやさしい事業所」の認定取得(2006 年認定、以降 2010、2013、2016、2019、2022、2025 更新認定)  
・「地域とよめる環境報告会」開催(岩手県との共催、以降 2007、2008 開催)
- 2007 ・まきば園バス待合所トイレ改裝時に「節水型トイレ」を導入(以降、随時導入)  
・平成 19 年度岩手県環境保全活動表彰「地球温暖化防止部門」受賞
- 2008 ・肥育牛舎新築時、インバーター制御換気扇導入
- 2009 ・環境省主催平成 20 年度「みどり香るまちづくり」企画コンテストにて学校法人スコール(盛岡市)と当社環境緑化部が共同企画した『風薫る通学 通園路』が入賞  
・LED 外灯導入開始
- 2011 ・東日本大震災(3.11)及び福島原発事故に起因する電力使用制限令に対応し、強度の節電、ピークシフト、まきば園及び鶏舎での照明の LED 化推進  
・まきば園内に太陽光発電装置設置  
・(財)都市緑化機構主催の第 10 回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールにて環境緑化部が施工した「一号館広場(丸の内パークビルディング・三菱一号館)」が「国土交通大臣賞」を受賞(三菱地所(株)他 4 社と共同受賞)  
・「小岩井農場エコファーマーリングスクール」が環境省・NPO 法人日本エコツーリズム協会共催の「第 7 回 エコツーリズム大賞特別賞」を受賞
- 2012 ・まきば園からの廃食用油をバイオディーゼル燃料(BDF)の原料として雫石町内福祉施設へ提供開始(2020 年まで)  
・「ガイド付きツアー『小岩井農場物語』」が環境省・NPO 法人日本エコツーリズム協会共催の「第 8 回 エコツーリズム大賞優秀賞」を受賞
- 2013 ・(株)バイオマスパワーしずくしが、東北経済産業局主催の「平成 24 年度 東北再生可能エネルギー利活用大賞」(バイオマスエネルギーの部)を受賞  
・再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT 制度)導入に伴い、(株)バイオマスパワーしずくしにおいて発電された電力を FIT 認定電気事業者へ販売開始(小岩井農場ではグリーン電力の使用中止)  
・酪農部鶴ヶ台牛舎搾乳施設の排水処理に活性汚泥法を利用した排水処理施設を導入し、2013 年より稼働を開始
- 2014 ・「ガイド付きツアー『小岩井農場物語』」が環境省・NPO 法人日本エコツーリズム協会共催の「第 10 回 エコツーリズム大賞」を受賞  
・「ガイド付きツアー『小岩井農場物語』」が日本観光振興協会主催の「第 8 回 産業観光まちづくり大賞観光庁長官賞」を受賞
- 2015 ・小岩井農牧(株)が「平成 27 年度 岩手県勢功労者」を受賞(環境保全意識の醸成や地域の活性化に寄与したこと等含め評価)  
・(株)バイオマスパワーしずくしが、新エネルギー財団主催、経済産業省後援の「平成 26 年度 新エネ大賞資源エネルギー庁長官賞」を受賞
- 2017 ・種鶏部の新孵卵舎が本格稼働を開始し、排水処理には接触酸化法による処理施設を導入  
・農場内の歴史的建築物 21 棟が「小岩井農場施設」として、国の重要文化財に指定される  
・「日本の 20 世紀遺産 20 選」(日本イコモス国内委員会)に選ばれる
- 2023 ・「小岩井農場めぐりバスツアー」が東北観光推進機構主催の「フェニックスアワード 2022」を受賞





2026 年(令和 8 年) 10 月 1 日初版発行 (Rev. No. 1.0)

小岩井農牧株式会社 <https://www.koiwai.co.jp/>

〒020-0507 岩手県岩手郡雫石町丸谷地 36 番地 1

問い合わせ先 品質保証部 EMS事務局

TEL : 019-692-4315

FAX : 019-692-4349

e-mail : [hinsho@koiwai.co.jp](mailto:hinsho@koiwai.co.jp)

この環境報告書は、FSC 認証紙を使用しています(印刷時)